

(様式4a 号)

患者さんおよび患者さんのご家族の方へ

このたび当院では、以下の臨床研究を、滋賀県立総合病院倫理委員会の承認を受け、かつ病院長の許可のもと実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

本研究の対象者に該当する可能性がある方やそのご家族の方で、ご質問がある場合、またはこの研究への参加を希望されない場合は、下記の担当者までご連絡ください。なお、本研究への協力を拒否されても、今後の治療を受けるうえで不利益が生じることはございません。

【研究課題名】

人工股関節全置換術後早期における自覚的脚長差と骨盤傾斜角との関連

1. 研究の目的・意義

当院リハビリテーション科では、年間 200 例程、人工股関節全置換術(THA)後のリハビリを実施しています。手術技術の進歩やクリニカルパス導入も行われ、入院期間は短縮傾向になっています。一方で、近年では THA 術後の自覚的脚長差(手術側の足が長く感じる現象)があると隣接関節に負担がかかり、歩行や運動時の違和感などの術後満足度に影響すると言われています。本研究では THA を受けられた患者さんの術後早期の股関節や骨盤帯の特徴と術後の自覚的脚長差との関係を検討します。この検討により、短期間の入院中のより有効なリハビリや退院後の自主練習指導など進める事に結びつくと考えています。

2. 研究方法

・当院で人工股関節全置換術を行った患者さんに対しては以下の事を行っています。

・手術前、手術後の骨盤正面レントゲン写真の撮影

・手術後 7 日目の自覚的脚長差の評価:短く感じている足の方に 5mm 間隔で板の上に乗ってもらい、水平と感じる板の厚みを計測(ブロックテスト)。

これらの診療情報を用い、レントゲン写真で確認される骨盤の傾きや角度とブロックテストの結果を比較検討します。

3. 対象となる方

2025 年 1 月～2025 年 12 月までに当院にて片側 THA を施行した 75 歳以下の女性の方

4. 利用する試料・情報

対象患者さんのレントゲン写真とカルテから以下の情報を抽出し、利用します。

・手術前後の骨盤正面レントゲン写真より術後脚長差、骨盤傾斜角、術前後脚延長量を抽出。

・カルテより術前、術後早期(7 日目)のブロックテストの結果を抽出。

5. 研究期間

倫理委員会承認日～2026 年 10 月 24 日

6. 個人情報の取扱い

個人を特定できないよう配慮します。

研究成果は、2026 年 10 月 24 日に開催される、第 52 回日本股関節学会学術集会で発表予定です。

7. 費用および謝金等

費用及び謝礼金の発生はありません。

8. お問い合わせ先

077-582-5031

滋賀県立総合病院 リハビリテーション科 主査 瀬大和(せ ひろかず)